

“音楽都市こおりやま”市民音楽祭主催行事

スクリーン ミュージック コンサート



指揮：
佐々木新平

Program

「スター・ウォーズ」組曲
「タイタニック」メドレー
「007」メドレー
「ディファニーで朝食を」より「ムーン・リバー」
「ゴッドファーザー」より「愛のテーマ」
「ニュー・シネマ・パラダイス」よりテーマ ほか

※新型コロナウイルス感染症拡大状況等により出演者・曲目は変更になる場合がございます。予めご了承ください。
※曲順は変更になる場合がございます。

2022年
8/28日 14:00開場
15:00開演

けんしん郡山文化センター 大ホール
(郡山市民文化センター)

◆入場料 (全席指定) ※税込
一般 4,200円 高校生以下 2,100円 車椅子席 2,100円

【みゆーあい郡山会員価格 一般 3,500円】※高校生以下、車椅子席はけんしん郡山文化センターのみで取り扱いあり。

【障がい者割引制度】介助者の同伴を必要とする障がい等級1級程度の方対象



管弦楽：
山形交響楽団
© Kazuhiko Suzuki

プログラム

入場券発売日

・けんしん郡山文化センター
・うすい百貨店(5階プレイガイド)
・ローソンチケット(Lコード:21540)
【店頭】ローソン店内機器より
【インターネット】<https://l-tike.com/> (PC・携帯共通) ・みゆーあい郡山(郡山市民文化センター) ※会員限定販売

先行電話予約 6月5日(日)～6月10日(金) ●6月5日(日)午前10時から受け付けます。
※電話予約は、けんしん郡山文化センターのみ受付となります。
※6月5日(日)は、座席指定はお受けできません。席数のみの予約となります。予めご了承ください。
※ご予約いただいた入場券は、6月12日(日)以降にご精算ください。(ご精算はご来館いただくか、お手数でも現金書留にて送付先まで送金願います。)

一般販売 6月11日(土) 午前9時～
※プレイガイドによって販売開始時刻は異なります。※みゆーあい郡山の発売日は、会員に直接連絡いたします。

一般電話予約 6月11日(土) 午後2時～ けんしん郡山文化センター ☎024-934-2288
※電話予約は、けんしん郡山文化センターのみ受付となります。
※お電話でご予約できる入場券は、けんしん郡山文化センターで窓口販売した後(先行電話予約分を含む)の入場券となります。
※お電話でご予約いただいた入場券のお取り置き期間は10日間です。10日以内に来館いただくか、お手数でも現金書留にて送付先まで送金願います。
【現金書留受付先】※先行及び一般電話予約共通 〒963-8878 福島県郡山市堀下1番2号 けんしん郡山文化センタースクリーンミュージック(株)

【主催】公益財団法人郡山市民文化・学び振興公社(郡山市民文化センター指定管理者)
【後援】福島民報社/福島民友新聞社/福島テレビ/福島中央テレビ/福島放送/テレビユー福島/ラジオ福島/ふくしまFM/郡山コミュニティ放送

お断り・お願い
・未就学児のご入場及び乳幼児のご同伴はお断りいたします。
・けんしん郡山文化センターには駐車場がありませんので、バス・タクシー等の交通機関をご利用ください。

・CNプレイガイド TEL:0570-08-9999
【店頭】セブンイレブン/ファミリーマート(各店内機器より)
【インターネット】<https://www.cnplayguide.com/>
(PC・携帯共通)

新型コロナウイルス感染症拡大予防のお願い

けんしん郡山文化センターの利用にあたっては、「新しい生活様式」を踏まえ、感染症拡大予防のご協力をお願いいたします。

- 人と人の間を空け、身体的距離の確保をお願いいたします。
- マスク着用を含む「せきエチケット」にご協力ください。
- こまめな「手洗い」や「手指消毒」をお願いいたします。
- 当日は換温し、ワクチン接種後であっても次の症状があるお客様のこまめなご遠慮ください。
・当日を含め、過去2週間以内に発熱(受診や服薬により解熱している状態を含む)
・呼吸器症状(せき、しゃみ等)がある方
・具合の悪い方
・感染拡大している地域や国への訪問歴が14日以内にある方
- 感染症拡大の状況によっては座席を移動していただく場合がございます。

感染予防に関する取り組みについて▶



お問い合わせ先

けんしん 郡山文化センター
Kenshin Cultural Center

☎024-934-2288

けんしん郡山文化センター 検索
けんしん郡山文化センターウェブサイト▶
✉kc-center@bunka-manabi.or.jp



この印刷物にFSC®認証紙を使用。緑リサイクル可。

スクリーンミュージックコンサート



佐々木新平 Shimpei Sasaki [指揮]

秋田県出身。東京学芸大学芸術文化課程音楽専攻を経て桐朋学園大学にて指揮を専攻。ヨーロッパ各地の国際指揮マスタークラスに選抜され、J.バヌラ、H.アンドレシュク、M.ストリンガーら巨匠たちの薫陶を受ける。2013年よりミュンヘンへ留学。ドイツを中心にヨーロッパ各地でさらなる研鑽を積んだ。2012年の第9回、2017年の第10回フィテルベルク国際指揮者コンクールにおいてディプロマ、2015年バザンソン国際指揮者コンクールにおいて本選最終の8人に選出。これまでに山形交響楽団をはじめ国内主要楽団に客演。東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団においては2010年より指揮研究員を務めた後2019年まで同楽団アソシエイト・コンダクターを歴任。2021年1月にはヤマハ吹奏楽団常任指揮者に就任し、吹奏楽の新たな境地を切り開く俊英としても期待が寄せられている。

現在オーケストラを中心に、吹奏楽、合唱、オペラ、バレエ等あらゆるシーンで才能を発揮。その活躍の様子はNHK-Eテレ「クラシック音楽館」、NHK-BSプレミアム公開収録コンサート、テレビ朝日「題名のない音楽会」、BSフジ「辻井伸行in富士山河口湖ピアノフェスティバル」等で放送された。その他、オーケストラによる多彩なCDレコーディングや映像収録、公式イベントでの指揮、さらに映画における出演者への指揮指導および劇中音楽のスタジオ収録指揮を務めるなど、多方面に活動の幅を広げている。しなやかな足取りで、ひたむきに遥かなる高みに向かう若き指揮者。
<https://shimpeisasaki.b-sheet.jp>



山形交響楽団 Yamagata Symphony Orchestra

常任指揮者 阪哲朗、首席客演指揮者 鈴木秀美、創立名誉指揮者 村川千秋、桂冠指揮者 飯森範親、名誉指揮者 黒岩英臣の指揮者陣に、コンポーザー・イン・レジデンス西村朗を擁する。山形テルサ・酒田・鶴岡での定期演奏会のほか、特別演奏会、依頼演奏会、山形県下で毎年3万人以上の青少年に“感動”を届けるスクールコンサートやテレビ・ラジオ出演、アウトリーチなど年間150回に及ぶ多彩な演奏活動を展開。古典作品でナチュラルプラスを用いて演奏することも山響の大きな特徴となっている。

1971年山形県出身の指揮者村川千秋によって準備オーケストラが組織され、翌1972年東北地方では初めてのプロ・オーケストラとして誕生した。同年8月運営母体として山形交響楽協会を設立し、9月には、第1回定期演奏会を開催。その後演奏活動範囲は、東北6県・新潟県にまで拡大した。

1987年サントリーホールにて初の東京公演を成功させ、以来継続的に東京公演を実施している。特に、2003年から毎年6月に東京オペラシティにて開催している「さくらんぼコンサート」では山形物産展を同時展開。“地方からの発信”の先駆けとなり、毎夏の風物詩となっている。2012年からは、「さくらんぼコンサート大阪公演」がスタート。活動の場を関西地域まで広げている。

1991年7月には、アメリカ・コロラド州で開催された「コロラド・ミュージック・フェスティバル」に参加、初の海外公演を行った。

2004年、飯森範親(2007年から音楽監督)の常任指揮者・ミュージックアドバイザー就任を機に、演奏水準・活動が飛躍的に成長し、名実共に東北地方のみならず日本の音楽文化を代表するオーケストラとしての地位を確立。2006年、オーケストラの自主レーベルとしては日本初となるCDレーベル「YSO live」を立ち上げ、高い評価を得ている。2007年から2015年まで8年半にわたる壮大なプロジェクト、「アマデウスへの旅」(モーツァルト交響曲全曲演奏会)を開催。2008年には、アカデミー賞映画「おくりびと」に出演。2017年「モーツァルト交響曲全集」を発売、第55回レコード・アカデミー賞(特別部門 企画・制作)を受賞し全国的な話題となる。

2020年6月より、常任指揮者阪哲朗とともに「ベートーヴェン交響曲全曲演奏会」をスタート。全集DVD制作とインターネット配信を通じて、山響の新たな魅力を発信している。2022年、創立50周年を迎えた。

山形県芸術文化会議賞、齋藤茂吉文化賞、河北文化賞、サントリー地域文化賞、地域文化功労者文部科学大臣表彰。
<https://www.yamakyu.or.jp/>

山形交響楽団映像配信のご案内

クラシック専門ライブストリーミング
プラットフォーム「CURTAIN CALL」▶
<https://curtaincall.media/yamakyu>



山形交響楽団公式YouTubeチャンネル▶

<https://www.youtube.com/c/YamagataSymphonyOrchestra>



©Kazuhiko Suzuki